



環境共生をめざす高品位の集合住宅

# エコビレッジ松戸<sup>まつど</sup>

建築主：財団法人 電力中央研究所  
設計：大成建設株式会社設計本部  
施工：大成建設株式会社千葉支店

所在地：松戸市小金原1-19-1



全景 分棟化され円弧状に配置された家族棟

(撮影 (株) エスエス東京 横瀬博一)

電力の総合的な研究機関に勤務する職員のための集合住宅（家族用と単身者用の別棟）である。

ここでは構想段階から、環境共生住宅がめざすものを追求し、先駆的に意欲的な試みが進められた。それは住宅及びその地域の環境が、①エネルギー・資源・廃棄物などの面で十分な配慮がされること、②周辺の自然環境と親密に美しく調和すること、③住み手が主体的にかかわりながら健康で快適に生活できるように工夫されていること等である。

正方形に近い敷地に対し、緻密なデザイン・プロセスを経て設計が定まった。周辺との調和、既存樹木の保存、採光・換気の最適化、動線や共有空間等を考え、家族棟は5つに分割し、円弧状に配置された。

構造躯体は長寿命の建材を用いながら、間仕切り壁や水廻り位置等は必要に応じて変更ができる。

冷暖房・給湯は新開発の水蓄熱・多機能ヒートポンプシステムを導入した。深夜電力や蓄熱槽の活用により、省エネルギー・低コストはもとより、電力需要のピークを抑制する効果も期待されるとのこと。



コモンガーデンと単身者棟・家族棟

高気密・高断熱の建物や省資源型の設備など先進的な技術を巧みに応用したことで高い評価を得た。

近隣との調和については異論もあったが、緑化樹の生育や水辺のビオトープの熟成を見守りたい。

環境デザインを総合化する試みが、民間住宅での建築計画において実践されたことの意義は大きい。（岩村和夫）